

日販連通信

第 1 号(創刊号)
2011 年4月8日 発行

発行者：日本販売農業協同組合連合会

中塚 敏春

住所：〒151-0053

東京都渋谷区代々木2-5-5

新宿農協会館

電話：03-3375-6399 Fax：03-3375-6637

Eメール：info-agricoop@pearl.ocn.ne.jp

発行のごあいさつ

このたびの東日本大震災および長野県北部を震源の地震により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

本会では震災後に情報の共有化をめざして、様々な情報を発信して参りました。

これを機会に会員、生産者向けの情報、会員、生産者団体の交流の場として「メルマガ」でお届けすることにいたしました。

皆様からのご要望、情報も取り入れ、発行日を決めず、最新の情報を必要な時に、求められる情報を適宜お届けするようにいたします。

皆様方のご期待にお応えすべく改善、努力いたす所存でございますので、何卒一層のご愛顧、ご利用を賜りますようお願い申し上げます。

2011 年 4 月 5 日 日本販売農業協同組合連合会
代表理事専務 中塚 敏春 (発行責任者)

一番最初の情報として、誰もが一度は読んだことのある「雨ニモマケズ」(宮沢賢治)をお届けいたします。被災者の皆様の復興を祈って、是非ご一読ください。(現代仮名遣いにしています。)

雨ニモマケズ 風ニモマケズ
雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ 丈夫ナカラダヲモチ
慾(よく)ハナク 決シテ瞋(いか)ラズ
イツモシヅカニワラッテイル
一日ニ玄米四合ト 味噌ト少シノ野菜ヲタベ
アラユルコトヲ ジブンヲカンジョウニ入レズニ
ヨクミキキシワカリ ソシテワスレズ
野原ノ松ノ林ノ蔭ノ 小サナ萱ヅキノ小屋ニイテ
東ニ病氣ノコドモアレバ 行ッテ看病シテヤリ
西ニツカレタ母アレバ 行ッテソノ稲ノ束ヲ負イ
南ニ死ニソウナ人アレバ 行ッテコワガラナクテモイイトイイ
北ニケンカヤソショウガアレバ ツマラナイカラヤメロトイイ
ヒドリノトキハナミダヲナガシ サムサノナツハオロオロアルキ
ミンナニデクノボートヨバレ

ホメラレモセズ　クニモサレズ
ソウイウモノニ　ワタシハナリタイ
(宮沢賢治)

【お願い】

今までお断り無く情報を送信してきましたことをお詫びいたします。
今後は登録制とさせていただきますので、ご不要の方は以下のアドレスまで受信拒否をご通知ください。
メールアドレス：info-agricoop@pearl.ocn.ne.jp

【報告】

株式会社加工連・菊地社長、生活協同組合あいコープみやぎ・吉武理事長より見舞御礼が届きました

株式会社加工連の菊地利衛社長より、震災の見舞御礼をいただきました(2011年4月2日付)。また、生活協同組合あいコープみやぎの吉武洋子理事長より同じく御礼をいただきました。それぞれのPDFファイルをこのメールに添付しておりますので、是非ご覧ください。

有限会社日向養豚の日向社長より、メールが届きました

有限会社日向養豚の日向社長より、メールをいただきました(2011年4月6日)。以下に転載します。

<東北地方太平洋沖地震>

(有) 日向養豚 日向一郎

誰が予想しただろうか？ この被害の甚大さ、特に津波の被害に遭われた方々、福島第一原発の放射能漏れ事故。私はちょうどその頃、オイスカ宮城支部主催によるタイ国ランブーンでの植林活動に参加していたためバンコックで知りました。即家に電話し、従業員に怪我はなかったこと、餌タンクの底が抜け自動ラインが使えなくなったこと、豚舎のコンクリート基礎に大きなひびが入ったこと、自家発電機(35KW)に切り替えたことを知り、まずは安堵しました。空港内のテレビは大津波の被害についてトップニュースで長い時間放映していました。

13日の朝やっとの思いで帰ってくると近所では電気や水道はストップ。幸い、農場は地下水利用なので周囲の人達にも分けてやっていました。固定電話は故障、携帯電話は20回に1回繋がればよい方、一日約3t食べる豚の飼料は予定通り入るのか農協や飼料屋さんに聞いても誰もわかりませんでした。東北にある釜石、石巻、塩竈(しおがま)の飼料工場は地震と津波の被害を受け復旧の目処がたたないとのことでした。7日ぐらいで豚の飼料がなくなってしまうので、その後どうなるのか心配でたまりませんでした。とりあえず、与える餌を約40%カットすることを作業員に伝えました。時間を稼ぐこと、とにかく今はいかに生き延びさせるか、農協や飼料屋さんには豚を餓死させることだけはしないようにお願いしました。

やっと16日5t、21日5t入庫、子豚用や育成用等と贅沢は言っていられない。肉豚用飼料を母豚や子豚に与え、飼料効率や発育は二の次で飼料なら何でもいからとお願いしました。

その後23日7t、25日5tと何とか入るようになりましたがまだ銘柄を選べる状態ではありません。肉豚用NON-GMO 飼料は、石巻の北日本くみあい飼料工場で製造していますが4月5日問い合わせたところ復旧するのは5月末とのことでした。それまでは普通肉豚用飼料(無薬)での飼育になることにご理解をいただかなければなりません。

又、近くの屠場(仙台食肉市場)も地震の被害を受け再開の目処は立っていません。出荷しないと毎週生まれてくる子豚の入る部屋がない。豚の在庫が膨らんで肉豚も大きくなり半値以下になってしまうので、とりあえず千葉県にある屠場まで運びました。

店頭には一時納豆や牛乳、肉などが消え、ガソリンもなかなか買えませんでした。4月に入りやっと工場や流通が少しずつ動くようになってきました。

さらに気がかりなのは、終息の目処も立っていない約140Km先にある福島第一原発事故。宮城県北部で生産される23年度産飼料米約130tを契約予定していますが放射能の影響が心配です。コスト優先社会がもたらした人災であり一刻も早く解決をお願いしたい。

養豚仲間も放射能汚染で放棄したり津波で流されたり被害ははかりしれませんが、一日も早い再起を願うばかりです。

東都生協にて野菜の放射線分析をおこないました。

4月1日(金)、日販連専務・中塚と新入職員・中川は東都生協・入間センターにある商品分析センターに行ってきました。東都生協の商品分析センターでは食品のガンマ線分析ができる機械を使用しており、農民連食品分析センターと中塚がその機械で野菜を分析してもらうことを申し入れ、快諾いただいたことによるものです。農民連食品分析センターの八田純人さんも同行しました。

「JA やさと」から提供されたきゅうり、小松菜、レタスについて検査をしていただきました。検査結果では、きゅうり、レタスについてはほとんど放射線が検出されず、小松菜で多少検出されました。小松菜の数値は600ベクレルでした(3月16日以降の厚生労働省の基準は1kgあたり2000ベクレル以下となっています)。これらの野菜については安全が確認されました。また、農民連・八田さんはハンディタイプのガイガー・カウンターで測定しました。その検査の結果、小松菜について0.01マイクロ・シーベルトが検出されましたが、きゅうり、レタスについては検出されませんでした。2つの測定により、サーベイメーターでの測定値と東都生協側の測定値がほぼ一致し、農民連食品分析センターでも野菜などの放射線量の推定値を出すことが可能となりました。

これを機会に、農民連食品分析センターでは簡易な測定に加えて、より正確な放射能数値を測定できる機材を配置する準備をはじめました。今後、農民連と東都生協の両検査センターが、残留農薬検査を含めて協力体制を確立していくことは、食の安全を守る運動にとっても大きな前進です。

新入職員紹介

日販連では4月1日付けで新入職員を採用いたしました。山本博史、中川洋介の両名です。山本さんについては農民連事務局と兼務での勤務となります。みなさま、どうぞよろしくお願いいたします。

【新入職員よりひとこと】



山本博史(やまもと・ひろし)

4月1日から、農民連本部の事務局と兼務で、日販連でもお手伝いをさせていただくことになりました。

こんど発行されることになった『日販連通信』で、農協をめぐる主な動向などをご紹介できればと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



中川洋介(なかがわ・ようすけ)

このたび日販連に新入職員として入りました中川洋介と申します。生産者である会員のみなさまと消費者である地域生協を結びつける仕事に就くことができ、喜んでおります。不慣れで至らない点が多々あると思いますが、がんばって参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

みなさまのご意見・ご感想をお待ちしております。 アドレス: info-agricoop@pearl.ocn.ne.jp